

新植地におけるニホンジカの効率的な捕獲技術の開発

平成 26 年度～28 年度（国補）

福本浩士

近年、ニホンジカ（以下、シカ）の個体数増加により農林業被害が増加している。スギ、ヒノキの新植地では食害を回避するために周囲にシカ侵入防止柵を設置しているが、十分に機能しているとは言えず、今後は新植地におけるシカの捕獲も必要となってくる。今年度は、新植地周辺においてくくり罠を用いて効率的に捕獲するための誘引餌検索と捕獲試験を実施した。また、移動組立式囲い罠を用いて効率的に捕獲するための誘引餌検索と遠隔監視・操作による捕獲試験を実施した。

1. くくり罠を用いた捕獲のための誘引餌の検索と捕獲試験

松阪市飯高町（以下、松阪）及び度会郡大紀町（以下、大紀）地内の新植地において、ヘイキューブ（乾牧草）とキノコ栽培用に用いた菌床ブロックを給餌し、自動撮影カメラを用いて誘引及び採食状況を確認した。給餌前期間は 2015 年 5 月 21 日～29 日、ヘイキューブの給餌期間は 5 月 29 日～6 月 10 日、廃菌床ブロックの給餌期間は 6 月 10 日～19 日である。大紀ではヘイキューブの誘引効果が確認されたが、廃菌床ブロックの誘引効果は認められなかった。一方、松阪ではヘイキューブ、廃菌床ブロックともに誘引効果を確認できなかった。以上の結果から、シカの餌資源となる草本類の現存量が多くなる時期においてもヘイキューブの誘引効果が認められたが、その効果は地域によって異なっていた。

2015 年 10 月から 2016 年 3 月にかけて、大紀においてくくり罠を用いた捕獲試験を実施した。新植地のシカ柵から 2 m 及び 50 m 離れた場所にくくり罠を設置するポイントを設定し、誘引餌を給餌する試験区（給餌区）と給餌しない試験区（対照区）を 1 カ所ずつ設定した。ヘイキューブを給餌した試験区のみ捕獲に成功し、給餌区の捕獲効率は 0～0.05 頭/基・日、対照区の捕獲効率は 0 頭/基・日であった。

2. 移動組立式囲い罠を用いた捕獲のための誘引餌の検索と低コスト捕獲システムによる捕獲試験

移動組立式囲い罠を用いて効率的に捕獲するため、大紀においてヘイキューブ（乾牧草）と廃菌床ブロックの誘引効果を検証するとともに、遠隔監視・操作で捕獲可能なシステム（罠以外の資材費：約 5 万円）を構築して捕獲試験を実施した。ヘイキューブの誘引効果は高く、囲い罠の内側へシカを誘導することが可能であったが、廃菌床ブロックには誘引効果は認められなかった（図 1）。

市販の赤外線無線カメラで遠隔監視し、小型動力を無線で作動させてトリガーを解除するシステムにより、シカの警戒心を高めることなく、継続的に捕獲することが可能となった。従来のワイヤートリガー方式で合計 3 頭、遠隔監視・操作方式で合計 5 頭のシカを捕獲した。

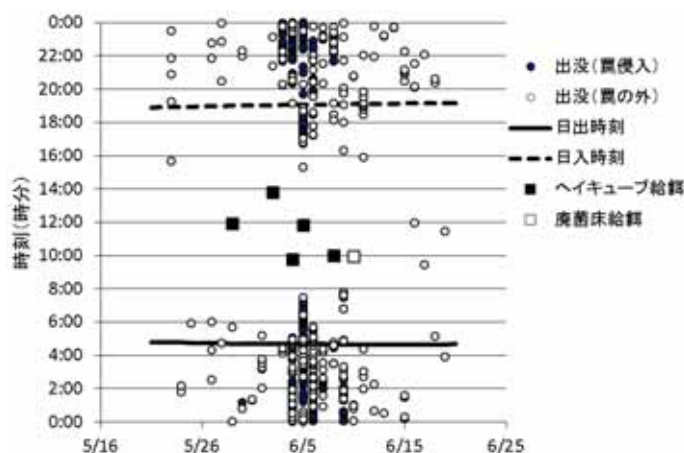


図-1. 移動組立式囲い罠の内部に誘引餌を設置した際のシカ出没・罠への侵入状況